

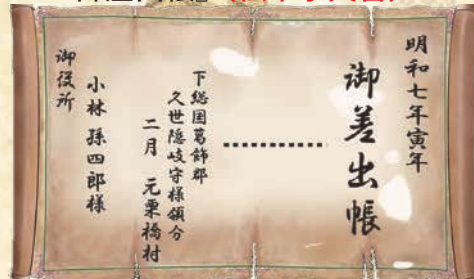
## 近代の五霞

## 江戸時代中期

## 【過疎化にあらがひ再生への道歩む】

- ①幕府の施策「利根川東遷・赤堀川開削」や「日光奥州街道付替え（元栗橋→新栗橋）」で、城下町、宿場町や関所が五霞から消え、古河や新栗橋（現・久喜市栗橋）へ移ります。
- ②武士が居なくなった上、幕府命令で元栗橋の池田鴨之介と並木五郎平が、在地の百姓54家を連れて出て行き、新栗橋宿の開発に携わったので、元栗橋はすっかり寂しくなりました。
- ③その後、新潟・福島や信州などにルーツを持つ人々の先祖が当地にやって来て、現在の元栗橋が形作られていきました。新生・元栗橋村の誕生です。

## 『御差出帳』（松本家文書）



	江戸時代	現在
元栗橋村	明和7年 (1770)	令和7年 (2025)
人口	1,073	1,512
男	540	738
女	501	774
世帯数	210	709
1軒当り	5.1	2.1
寺院	11	3

## ←現在の「国勢調査」に当たる「差出帳」

255年前の明和7年（1770）に作成され、幕府へ提出された元栗橋村（含：土与部）の「差出帳」です。

## ★現在の元栗橋地区と比較すると

- 人口は439人増加していますが、1軒当りの家族数は減少しています。
- お寺は11寺あり、山伏8人を含めお寺関係者が30人もいました。
- 渡し守や大工・木こりはいましたが、浪人・郷士・医者はいませんでした。

## 江戸時代後期【自由で活動的な名主さん達】

- 天保12年(1841)、老中・水野忠邦の「天保の改革」が始まった年、古河や幸手など、近隣の友人に誘われた元栗橋村の勤兵衛さん、『出羽三山詣』に出かけます。
- 勤兵衛さんの日記によれば  
5月18日、勤兵衛さん達6人は、古河の松五郎宅に集まり出立。  
仙台や松島の名所・旧跡を訪ね、仙台藩御用達の酒を楽しみ、芭蕉気分で俳句をひねりながら『出羽三山』を参詣した後、越後や上州・草津温泉経由で、7月13日夜、元栗橋村に帰村しています。  
都合、55日間の旅路でした。（晴37日、曇10日、雨8日）

※関宿藩重役・舟橋隋庵は銭別をくれなかった為、土産不要と記載



## 幕末の五霞

## 【利根川図志が描く五霞】

- 安政5年（1858年）に発行された『利根川図志』は、医師・赤松宗旦が著した利根川中・下流域の地誌、いわば当時のガイドブックですが、本編は古河や五霞から始まり、順次、川下の町や村を紹介しています。
- 宗旦は松本勤兵衛さん宅に1週間ほど滞在。当地を見聞した上、五霞の紹介記事を書いています。

## ★利根川流域の歩き方／旅立ちの町・五霞★



## 【五霞の古文書が語る江戸の事件簿】

- 利根川治水に関する歴史的文書の書き写し
- 川妻の藤沼家が作成し奉行所へ提出した「川妻文書」。
- 根岸門蔵が失くすも幸主の小沢家が書き写していた。
- 幸手の島上和平が老中・松平定信へ提出した建白書・「治河言上之案文」を幸館の中村家が写し、それを元栗橋の松本勤兵衛さんが徹夜で写し、返却した。

## ■村外で起った有名事件にも興味深々な名主さん幕府の公式文書も写した名主達。どうやったの？

- 古河藩主が関係した「大塩平八郎の乱」…幸主・小沢家
- 関宿藩主も現場にいた「坂下門外の変」…同小沢家
- 「一橋家 vs 鍋島家騒動」…元栗橋の松本家

## ★異国にも興味深々な元栗橋の勤兵衛さん

- 海難事故にあった日本の水夫22名を救助して、浦賀湊に入港した米国の捕鯨船マンハッタン号事件…元栗橋・松本勤兵衛さん、書き記す
- ロシア・プチャーチン来航と老中連署の返書[国書]、その「写し」を持っている勤兵衛さん。

どうやって手に入れたのでしょうか？ 不思議！